

平成31年度（2019年度） 県立水戸南高等学校（定時制・昼間制）自己評価表

目指す学 校像	校是「風雪に耐えてこそ巨木の年輪ハ刻まれる」 常に明るくのびのびと学習を続け、高い理想と強い向上意欲に燃える豊かな心情と丈夫な身体とを兼ね備えた、心身ともにたくましい人間を育成する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> 「わかる楽しさを実感できる授業」や生徒の実態を把握し、個別指導を充実させることで、学習意欲が増し、職業観も育成されてきた。今後、社会生活に必要なスキルや対人関係力等の指導も一層充実させたい。 不登校経験者が6割を超す中、生徒に寄り添った指導と、生徒自身の向上心から多くの生徒の状況は、改善されている。さらなる飛躍をサポートしたい。 学校の教育活動全体を通じ、道德教育との連携を図り「心の教育」が浸透してきている。さらなる充実を目指したい。 様々な支援事業等の活用や各種体験活動・生徒会活動により、人間力が成長している。学校行事をはじめとする学校生活への積極的参加を促し、より一層充実した高校生活を送らせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上と基礎・基本の確実な定着 思考力・判断力・表現力の向上 職業選択の意識の高揚と、望ましい勤労観・職業観の育成 主体的な進路選択と進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる創意工夫をこらし、「わかる楽しさを実感できる授業」を目指す。 学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を目指す。 思考力・判断力・表現力を向上させ、生きる力を養う。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 自己指導力の養成 基本的な生活習慣の確立 心の居場所としての学校づくり 教育相談や特別支援体制のさらなる充実 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア・カウンセリングの機会の確保に努め、キャリア教育を推進する。 進路ガイダンスを活用し、多様な状況に応じて適切な進路指導を行う。 生徒の特性や進路希望に合った資格の積極的取得を目指す。 生徒の自己指導力や自主自立の精神を向上させられる様、生徒へ寄り添った指導を目指す。 学校生活や様々な体験活動を通して、マナーやモラルの向上とさらなるコミュニケーション能力の養成を目指す。 多様性を受け入れ、自他共に尊重できるこころの育成を目指す。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな心の育成と規範意識の確立 道德教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会をとらえ、「こころの教育」を育む教育活動を進める。 「道德」から「道德プラス」へ、つながりと活動の充実を目指す。 学校の教育活動全体を通じ、道德教育との連携を図る。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動への積極的・意欲的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> 南祭（文化祭）や生徒会行事、クラスマッチ、生活体験発表等の学校行事を通して主体的に行動できる態度を養うと共に、思いやりの気持ちを育てる。 部活動の活性化を図り、定通体育大会への積極的な参加を促す。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の教育力向上 	<ul style="list-style-type: none"> 広く校外の講師を招き、校内研修を充実充実させると共に、積極的に校外の教員研修等に参加し、教職員としてのスキルアップを図る。 教師の教育力向上を通じ、地域社会からの期待に応えられる学校を目指す。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎学力の確実な定着を図り、主体的な授業態度を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の充実を図るとともに、生徒が「わかる」楽しさを実感できる授業展開を目指す。 基本的な学習態度や個性を伸ばし、主体的に学ぶ姿勢を育成する。 生徒の学習意欲を引き出すために、教材・学習方法を工夫するなどして、積極的な授業への参加を促す。指導方法の改善を進め、授業規律の確立を目指す。 		
	基礎・基本の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の現状を理解し、必要があれば中学レベルに立ち返って学力を補う指導をする。 プリントを活用して確認するなど、小さな目標を設定しながら、自ら学ぶ姿勢を養う。 		
教 科	国語	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適性、興味・関心に応じた指導の工夫に努める。 習熟度別にクラスを編成し、生徒の能力や適性に応じた指導を行う。 多様な生徒に対応できるように、学習形態を工夫する。 漢字検定を奨励し、漢字や国語に親しむ態度を育てる。昨年同様、検定合格者増を目指す。 思考力の向上をはかる。 課外授業の充実を図り知識及び技能を習得させ、思考力を育む。 		
	地理	<ul style="list-style-type: none"> 地域の類似性・相違性を判断する力を培う。 地理的事象を、国際社会の変化を踏まえて公正に思考・判断し表現する力を養う。 地図や統計などの諸資料を活用し、追及した過程や結果を表現する力を育てる。 		
	歴史	<ul style="list-style-type: none"> 歴史上の時代や地域のつながりを見る力を養う。 新聞、写真、統計などの資料を用いて、歴史的事象を思考する力を養う。 副教材を資料として活用し、歴史的事象を公正に判断する力を身につける。 時代差や地域の比較に目を向け、それらを説明したり、表現する力を身につける。 		
	公民	<ul style="list-style-type: none"> 政治や経済のしくみを理解させ判断力を育成する。 視聴覚教材などを活用し、現実の問題を多角的な視点から考察する力を育てる。 新聞記事や統計データを読み取り、分析解釈し判断する力を養う。 		
民	人間としての在り方・生き方を考える態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 先人達の人生における様々な課題を、机上での知識の修得に終わらせることのないよう自分自身の生き方に照らし合わせ、主体的・対話的に考察し深い学びになるようにする。 		

数 学	基礎的、基本的な知識、技能の向上を図る。 数学への興味・関心を高め、新しく学んだ知識との既存の知識との連携を図り、主体的な学びを促す。	・習熟度別にクラスを編成し、習熟の程度に応じた知識、技能を充実させる。		
		・生徒の現状理解のため小テストなどを実施し、基礎的な知識、技能の浸透を図る。		
		・課外授業の充実を図り、生徒の進路希望に沿うことができるよう努める。		
		・成績不振者の実態を把握し、必要に応じて個別指導を行う。定期テスト問題や評価を工夫する。		
		・数学を必要とする者、数学に興味関心のある者に対して積極的に個別指導を行う。		
		・基礎的、基本的な知識、技能を習得させ学ぶ楽しさを伝え、意欲の向上を図る。		
理 科	基礎学力の向上を図る。	・生徒の能力に応じた指導内容を精選する。また、学力差を考慮し段階的に取り組める教材を取り入れる。		
		・ノート点検やプリント提出・小テスト等により、理解度・定着度を把握する。		
	・成績不振生徒への特別指導を充実させる。			
	興味・関心を高める。	・主体的で深い学びの実現に向けて、興味関心を喚起するため、実験・観察等の充実をはかり、視聴覚教材の活用を進める。		
保 健 体 育	基礎的な身体能力や知識の向上を図る。(体育)	・生徒の運動技能に留意しながら、自発的に活動できるよう指示を工夫する。		
		・それぞれの運動特性や魅力に応じて、継続して運動する楽しさを実感させる。		
	・生徒間のコミュニケーション機会を多くもち、目標の解決を目指し運動に取り組ませる。			
	健康に対する興味・関心を高める。(保健)	・自己や他者の健康に興味・関心を持たせ、日常生活でも積極的に実践できるよう促していく。		
芸 術	芸術の基礎・基本の獲得がもたらす概念領域の拡張とその先にある思考力の向上を目指す。	・レイコフ&ジョンソンが提唱した概念メタファーの考え方にに基づき、実習などの具体的な経験を通して認知技能を向上させ概念領域の拡張を図る。新たに獲得された概念領域を用いて他の概念領域の理解を促し、重層的な思考へ導く。		
		・わかりやすい説明を心掛け課題内容に対する理解を深めさせる。効率的に制作や表現ができるようにタイミングを考えた指示を工夫する。		
	・発達段階に応じた課題を設定し、獲得した技能が次の課題の必須技能となるような構造を有するカリキュラムを工夫する。			
	・肯定的に評価することで自信をつけさせ、主体的に表現に取り組む意欲を引き出す。			
	授業計画の適性化を図る。	・施設、教材・教具の充実と開発、教室のレイアウトの最適化に努め、授業効率を高める。		
	表現に対する意欲を引き出す。			
	学習環境の充実に努める			
英 語	基礎学力の定着を図るとともに、英語での発信を意識した指導を行う	・コミュニケーション英語 I の授業において基礎基本の理解と定着を図り、学習意欲の喚起に努める。		
		・個々の生徒の特性に留意しながら、英語による発信の機会を増やすよう努める。		
		・4技能を用いる言語活動を通し、語句や文法事項の定着に努める。		
	英語に対する興味・関心を高める。	・ALTを活用して、英語を使う楽しさを実感させる。		
		・英検受験やスピーチコンテストへの参加を積極的に勧める。		

教	家庭	実験・実習を充実させ、 生活的自立に向けて基礎 学力の向上を図る。	・生徒の興味・関心を引き出すために教材を工夫し授業を改善することで主体的・対話的で深い 学びの実現を目指す。				
			・実験、実習、演習を中心とした体験的・課題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現 力を向上させ、人間性を育成する。				
			・基礎的・基本的な知識・技術を理解させ、実践的な能力態度を身に付けさせる。製作実習では、 完成までのプロセスを重視し、きめ細かな指導を行い達成感を持たせる。				
			・専門教科における技術検定試験の指導を通して学びに向かう力を育成し、合格率を引き上げる。				
科	商業	学習環境の整備と安全教 育に努める。	・施設、設備の効果的な活用を図り、実験実習における安全、衛生事故防止等の徹底を図る。				
			商業の各分野について体系的 ・系統的に理解するとと もに、関連する技術を身に 付けるようにする。	・基礎的・基本的な知識・技術・判断力の確実な定着を図る。			
				・生徒の学習の理解度を把握し、必要に応じ個別にフォローする。			
				・グループ活動をとおり、時事問題など他の意見と比較しながら考察できるように工夫する。			
情報	情報と情報技術を適切に 活用するとともに、情報 社会に主体的に参画する 態度を養う。	情報と情報技術を適切に 活用するとともに、情報 社会に主体的に参画する 態度を養う。	・職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。				
			・基礎的・基本的な知識・技術・表現力の確実な定着を図る。				
			・情報と情報技術活用して問題を発見・解決する方法を身につけさせる。				
			・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察すること。				

教 務	行事運営の工夫に努め る。 教育課程の工夫に努め る。 教育活動の円滑な推進を 図る。	行事運営の工夫に努め る。 教育課程の工夫に努め る。 教育活動の円滑な推進を 図る。	・各部との連絡調整のもと、行事・日程等の効率的運営を図る。			
			・新教育課程に対応した教育課程の編成をしていく。			
			・履修指導の充実と生徒にわかりやすく活用しやすいシラバスの工夫改善を図る。			
			・学校外の学修による単位認定等、単位制高校の特色を生かした教育活動の工夫改善を進める。			
生徒指導	基本的生活習慣の確立に 努める。 規律ある、安全安心な学 校生活の推進に努める。 本校の「いじめ防止基本 方針」に基づき、いじめ の防止に努め、実態把握 およびいじめに対する措 置を適切に行う。	基本的生活習慣の確立に 努める。 規律ある、安全安心な学 校生活の推進に努める。 本校の「いじめ防止基本 方針」に基づき、いじめ の防止に努め、実態把握 およびいじめに対する措 置を適切に行う。	・校内諸規定を整備する。			
			・奨学金制度の周知に努める。			
			・支援システムを活用して成績処理を円滑に行う。			
			・定期的な登校指導を通して、挨拶の励行、遅刻防止を呼びかける。 LHRや学年集会等を利用して、授業態度、言葉づかい、礼儀作法等を指導する。			
			・全職員輪番で校舎内外を巡回し、日々の声かけにより、生徒の状況を把握する。			
			・集会や講演会等を利用して、交通安全、薬物乱用防止、情報機器の安全な利用やマナーの向上 について指導する。			
			・各学年主任、生徒指導相談員、生徒指導主事による情報交換会を月1回開催する。			
			・教育相談係との情報交換を密にし、個人に対してきめ細かな指導をする。			
			・生徒の自己有用感等を高め、生徒が相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。			
			・保護者から相談されやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。			
			・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。			
			・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。			
			・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。			

進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める。	・進路ガイダンスを実施し、生徒各自の進路に対する意識の高揚を図る。			
		・面談・履修指導・適性検査等を通して自己の適性に合ったキャリア教育ができるようにする。			
		・3～4年間を通した、進路指導のスケジュール等の充実に努め、生徒の進路研究および教師の進路指導に役立てる。			
	進学指導の充実を図る。	・大学等の進学希望者に対し、進学先に合ったきめ細かな指導を行う。			
就職指導の充実を図る。	・就職希望者に対しては、個々の生徒に求人票等を紹介し個別指導の徹底を図る。				
学習指導	学習意欲の向上と確かな学力の定着。	・進学課外を継続的に実施し、個々に合った学習指導をする。 また、個別に声かけをし、課外受講者の増加に努める。			
	視聴覚教育の充実。	・視聴覚室及び視聴覚教材の整備と機器の更新を進める。 視聴覚室と放送機器の使用法の周知を図り、その活用を促す。			
	図書館の充実と利用の促進	・図書館内の美化や図書の配置を見直し、利用しやすい環境を整える。 図書資料・情報の提供に努め、来館者の増加に努める。			
	教科書関係事務の円滑かつ正確な遂行	・対象者へのわかりやすい提示の工夫をする。確認を徹底し書類不備の減少を目指す。			
特別活動	生徒会活動の一層の活性化を図る。	・本部役員同士のコミュニケーション機会を多く持ち、魅力ある学校行事を実施する			
	生徒の自主性を育む行事の運営に努める。	・一般生徒の積極的な活動を支援し、自発的な活動を高める。 ・環境美化活動、ボランティア活動、社会教育活動の積極的な参加を促す。			
	部活動の活性化を図る。	・部活動の充実に加え、生徒が活躍できる機会を持たせる工夫をする。			
保健	生徒の心身の健康増進を図る。	・健康診断の受診率向上を目指すとともに、有所見生徒の再検査受診率向上を図る。 ・常に生徒の心身の健康状態の把握に努め、早期に問題の解決に当たる。			
	生徒の健康・安全に対する知識の獲得や技能の向上を図る	・避難訓練や心肺蘇生法講習を実施し、安全に対する知識と技能の獲得・向上に努める。 ・性教育講話を実施し、自他の生命を尊重する態度と望ましい人間関係の醸成を図る。			
	環境の美化を推進する。	・通常清掃・クリーン作戦及び整備委員会の活動を通して校内の美化に努める。			
		・清掃用具の過不足の調整等で作業の効率化を図る。 ・ゴミの捨て方、トイレの使用法などに関して生徒の美化意識の向上を図る。			
渉外	各種行事への会員の関心と参加率を高め、家庭との連携を密にする。	・会員が参加したくなる学校行事を企画する。			
		・役員・委員の要望を事業により反映させることによって自主性を引き出し、各会の主体的な運営を促す。			
		・渉外部員間での情報共有を意識的に行う。			
		・広報紙やインターネットを利用して効率的に会員相互の理解と問題の共有を図る。			

教育相談	適応支援室の充実に努める。	・適応支援室を通して、学校が、心の休まる場所となることを目指す。 また、支援室スタッフとの連絡を密にし、教職員と連携を深めて指導の充実を図る。			
	スクールカウンセラーとの連携に努める。	・スクールカウンセラーを交えての事例検討を行う。スクールカウンセラーと担任及び関係職員との連携を深める。 ・生徒対象のアセスメント活用法を模索する。			
	特別支援教育の理解と充実に努める。	・特別支援学校への訪問見学研修、校内研修、教育研修センターでの研修を通じて、特別支援教育の視点に立った教育活動への理解を深め、実践につなげる。			
		・特別支援教育校内委員会の活動を通じて、合理的配慮に対する理解を共有し、充実を図る。 ・通級指導実施までの流れを整備し、効果的な実働に結びつける。			
第1年次	高校生としての自覚を促し、基本的な生活習慣の確立を目指す。	・オリエンテーションを実施し、本校について周知し順調な学校生活を支援する。 ・生徒個別面談を実施し生徒理解に努める。 ・機会あるごとに声をかけ、生徒の状況把握と生徒実態の理解に努め、きめ細かな指導を行う。			
	多様な課題を抱えた生徒に適切に対応する。	・養護教諭、教育相談係、スクールカウンセラーと協力し、情報を共有する。 ・家庭との連絡を密にし、生徒情報の掌握に努める。			
	基礎学力の向上に努める。	・夏休み前のTTを通して、授業にきちんと取り組む指導に努める。 ・課外への参加や火曜日SHRの漢字テストへの取り組みを促し、生徒一人ひとりの発達を支援する。			
	第2年次	基本的な学校生活習慣の確立に努める。	・修得単位数などの自己の状況を理解し、卒業予定生になるために必要な単位修得を目指す。 ・声かけや面談を行うことで、生徒状況を正しく把握し、丁寧な指導に努める。 ・多様な課題を抱えた生徒への組織的な対応を図る。 ・家庭との連絡を密にすることで、家庭との協力体制を作る。		
基礎学力の向上に努める。		・授業などあらゆる機会を通して授業にきちんと取り組むように促す。 ・進学課外の受講や、模擬試験の受験を勧める。また、一般常識テストを実施して社会に通用する基礎学力を育成する。			
進路意識の向上を図る。		・進路ガイダンス、進路適性検査やホームルーム活動を通して、正しい職業観や勤労観を養う。 ・個別面談を実施し、卒業後の進路決定に向けて生徒個々の進路課題を明確にする。			
		3年次	できるだけ多くの生徒を卒業させる。	・出席状況を把握し、生徒・保護者との連絡を密にすることで、確実に単位を修得させる。	
進路希望の実現を図る。	・必要に応じて個別面談を実施することで、機を逃さず適切な指導をする。 ・進路ガイダンスやオープンキャンパス等への積極的参加を促す。 ・生徒への有用な進路情報の提供に努める。				
	自律的な生活態度の確立に努める。		・卒業後を見据え、あらゆる機会を利用して常識ある態度の育成に努める。		
協調性の育成に努める。	・学校行事への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力および協調性の育成に努める。				

※ 評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

